極小未熟児における母子関係

―とくに母子分離の母性行動に与える影響―

竹内　徹（淀川キリスト教病院小児科）
藤村正哲（　〃　）

問　題

未熟児の長期予後は，周産期医学の進歩によって従来報告されてきた以上に良好なものとなってきた。とくに極小未熟児においてもその死亡率・罹患率と著しい改善がみられる。しかしかつてV.Mクロス（1971）が述べたように，低出生体重そのものは，子どもの社会的発達に関しては，それほど重要な障害因子とはならず，むしろ家庭環境とくに両親の養育態度に影響されることが強調されるようになった。もし両親の態度が良好なものであれば，低出生体重ということ自身は，子どもの社会的発達を遅延させたり，変容させる因子とはならないといわれている。

われわれは特に母親の養育態度を評価するため，母子相互作用という客観的視点から観察する目的で，(1)母親の養育態度の心理学的分析，(2)初期の母子相互作用とくに早期接触時にみられる母性行動および(3)乳児期の母性行動の観察を行なうものである。今回は(2)および(3)の観察のための予備的研究として，極小未熟児の母親について，その養育態度および心理学的考察を行なった。

方　法

(1)対象：昭和54年および55年の2回にわたり，当院特殊看護室退院の乳児を対象として，母親の養育態度および母親の初対面時の心理的反応，その後の育児における心理的側面を分析した。

第1回は昭和54年9月7日より11月2日間に来院させた45名の未熟児（男23名，女22名平均出生体重1,348g）を持つ母親（平均年令29才）に対して行なった。なお比較群として正期産の乳児102名（男59名，女43名）の母親（平均年令29才）である。

第2回は昭和55年8月1日より10月24日間に，当院発達外来で本院特殊看護室で保育された未熟児37名（男21名，女16名）を対象としたものである。2回とも発達外来では，身体的な発育のみならず神経学的検査も施行した。心理面では，関西学院大学文学部教育心理学教室員の協力によった。ここでは第1回観察では，主として未熟児を持つ母親の養育態度を中心に行ない，第2回は主として未熟児の母親の初対面時およびその後の心理学的反応を中心に報告した。

(2)手続き：第1回では，母親の不安測定にはCattell Anxiety Scale（CAS）の日本版養育態度判定にはFels Parents Behavior Scale（両親行動評定尺度）を用いた。第2回ではState-Trait Anxiety Inventory（STAI），およびモーズレイ性格検査（Maudsley Personality Inventory, MPI）を用いた。また第1回では未熟児の母親に養育態度調査用質問紙，第2回では，周産期資料，初対面時および早期接触時およびその後の心理的反応に対する設問を含む育児質問紙を用いた。各問とも未熟児の母親に対しては，検診中可能な範囲でインタビューを行なった。

結　果

(1)第1回の観察では質問紙を項目ごとに溺愛型(A)，民主型(B)，専制型(C)，拒否型(D)に分類し，未熟児と成熟児群の母親の養育態度について各カテゴリーの出現率を比較検討した。また子どもの発達状態を考慮して，月令ごと（4－6カ月，7－9カ月，10－12カ月）の比較を行なった。結果は，各項目中，5，9，10項目（表1）に有意差がみられ（表2），また発育段階別では，両群間で有意差がみられたのは，1，5，10 項目についてであった。また育児経験の有無による比較では，有意差のあった項目は，経験ありの母親では7項目で，経験なしの母親では，5，6，11項目

であり，育児経験のない場合はより多くの差が出現した。

ＣＡＳ得点の平均値には，両群間には有意差を認めなかった。

(2)第１回検診結果：アンケート結果のうち，とくに早期接触（視覚接触および皮膚接触）に関する解答結果は表３に示す。またＳＴＡＩのState項目，Trait項目，ＭＰＩのＥ尺度，Ｎ尺度の各得点を，中央値でhighとlowに分けアンケート各項目について x^2 検定を行なった。そのうち有意傾向のみられたものは(a)母親の外向性と未熟児出産の予想の有無，(b)母親の状況不安と子どもに触れる前の母親の気持，(c)母親の神経症的傾向と，子どもの退院後の母親の気持，(d)母親の特性不安と母親としての実感がわくまでの回数などである。

有意差のみられたものは，(a)母親の神経症的傾向と，子どもに触れる前の母親の気持ち，(b)母親の外向性と，他の兄弟（姉妹）との関連における子どもへの気持ち，(c)皮慮接触と子どもの経過であった。

考案およびまとめ

第１回観察では，未熟児・成熟児の母親について，特性不安に差は認められなかった。養育態度において未熟児の母親は共通して，子どもの身体・発育状態に関して溺愛的傾向を示した。さらにこの特徴は，子どもの月令の低い時期に顕著にみとめられた。また母親の情緒的安定は，成熟児の母親より遅い時期にあらわれた。この要因として初期においては，子どもとの適応関係が得がたいため，過度の緊張状態に陥っていることがあげられる。なお育児経験がなく未熟児をもった母親には情緒的混乱がみられ，そうでない母親以上に育児に客観性が保てず，不安定であり，そのため主体性のある育児がなされていないことが明らかにされた。

第２回観察では，未熟児を経験した母親の不安および人格特性を測定し，それが(1)母親の養育態度，心理状態ひいては子どもの発育状態といかに関連するか，また(2)母子の早期からの皮膚接触および視覚接触の時期の影響を考察したものである。とくに後者については，要約すると，アンケート結果からは子どもとの皮膚接触の前は非常に消極的であるが，接触が増えるに従って愛着が増すこと，母親の神経症的傾向尺度（Ｎ尺度）得点数と皮膚接触前の気持ち，あるいは子どもの退院を待つ時の気持ちとの間に有意差が認められた。すなわち，母親は未熟産をどう受けとめてよいかわからず，ＮＩＣＵの緊張した雰囲気で非常にうろたえるが，子どもを見，触れることで徐々に安定していく。この時Ｎ尺度得点の高い母親ほど，皮膚接触に対しては消極的であり，子どもの退院を待つ時も受け入れ体制は不十分である。一方不安に関しては，状況不安が高いほど，皮膚接触に関して消極的であり，特性不安が高いほど母親としての実感を持つ時期が遅くなる傾向があった。

以上の結果から(1)極小未熟児の母親は，退院後の乳児期初期において，子どもとの適応関係が得にくいため，溺愛的傾向が強く，情緒的安定の時期が遅れる。すなわち早期からの母子相互関係の円滑な成立が障害されやすい状況にある。(2)早期の母子接触（視覚および皮膚接触）は回を重ねる毎に，母親の愛着の成立を促進させる。しかし今回の調査では，視経症的傾向尺度の得点の高い母親に対しては，十分配慮して初期対面から退院まで指導することが必要であると思われる（表３）。

表1.　養育態度に関する質問紙

あなたがお子さんをどのように育てていらっしゃるかを知りたいのですから，次の4項目中いちばんご自身にあてはまると思われるものに○印をつけて下さい。なお，どの項目が一番よいとか，一番悪いとかいうことはありませんから，ありのまま正直に答えて下さい。

1
1. 子供が泣いたとき，泣き声を聞くと何をしていてもすぐそれをやめてとんでいく。(A)
2. 子供が泣きやむまでほっておく。(D)
3. いちおう仕事のきりをつけてから子供の傍にいってなだめる。(B)
4. すぐ傍にいって黙るようにしかる。(C)

2
1. 子供を寝かしつけるとき，いつもいっしよに寝てやるかだっこして寝かしつける。(A)
2. 子供がいやがっても無理に寝かしつける。(C)
3. 子供をふとんにいれたあとは寝るまでひとりにしておく。(B)
4. 子供は眠くなるとどこでも自分で寝ている。(D)

3
1. 子供をあなたの目のとどかない所では心配で絶対ひとりでおらせられない。(A)
2. 危険のないことを十分確かめておいてひとりでおらせる。(B)
3. 目のとどかない所でも平気で子供をおいておく。(D)
4. 子供の独立心を養うため少々無理でもひとりでおらせるように努める。(C)

4
1. 子供がちょっとでも病気になると心配で何も手につかなくなる。(A)
2. べつにいっこうに心配しない。(D)
3. 子供の病気のために良いと思ったことは子供がどんなにいやがってもする。(C)
4. 病気について心配するが，いちおうどうしたらよいか考える。(B)

5
1. 子供ができなかったことをはじめてするようになったとき涙がでるほどうれしかった。(A)
2. よろこんで賞賛を与えた。(B)
3. もう一度それをするように強いた。(C)
4. 別に何とも思わなかった。(D)

6
1. 子供の将来に対しては，あなたの思うようにしたいと思う。(C)
2. 子供の能力にあい，子供の好きなことをさせたいと思う。(B)
3. 子供のしたいことなら何でもさせてやりたいと思う。(A)
4. 子供の将来はどうなってもかまわない。(D)

7
1. 子供の日課（食事・睡眠など）は，きちんと時間を決めてあってそれを厳守する。(C)
2. 子供の心身の状態に応じて，時間を多少融通つけておこなう。(B)
3. 日課や時間は特別に決めてなくて，子供のきげんを損じないようにしながら育てている（ほしがるときにやっている）。(A)
4. 全く無とん着である。(D)

8
1. 時間の許す限り子供といっしよにいて子供の相手をしてやっている。(B)
2. 子供がいやがってもあなたのさせたいことをさせている。(C)
3. いつも子供といっしょにいて子供を楽しませるように努めている。(A)
4. 子供といっしょにいることはほとんどなく，子供のしたいようにさせている。(D)

9
1. 子供があやまって大切なものをこわしたとき大声でしかりつける。(C)
2. 子供の手のとどくところにものを置いた方が悪いのだから，すぐ許してやる。(A)
3. 子供にわからなくてもいちおうその非を話す。(B)
4. いっこう無とん着である。(D)

10
1. 子供の健康増進のため，ありとあらゆることをしてみる。(A)
2. 適当と思われることのみしてみる。(B)
3. 良いと思ったことは，子供に少々無理でもやる。(C)
4. 子供は丈夫なので特別に何もしない。(D)

11
1. 子供のきげんが悪いとき，きげんを直すようにいろいろなだめる。(A)
2. ふきげんの原因を知るように努める。(B)
3. すぐ，きげんを直すようにしかる。(C)
4. きげんがよくても悪くてもいっこうにかまわない。(D)

12
1. 子供のほしそうなものはなんでも与える。(A)
2. 子供のほしそうなものでも適当なものだけを与える。(B)
3. あなたが適当と思うものは子供がほしがらなくても与える。(C)
4. 子供に別に何も与えない。(D)

13
1. 子供がひとりでできそうなときでも見ていられなくなって手を借してしまう。(A)
2. 子供が勝手にやっている。(D)
3. しかってでもひとりでさせる。(C)
4. できそうだとわかったらじっと見ててやる。(B)

（※（ ）内は結果の処理に使用した）

表2. 未熟児群と成熟児群の養育態度の比較

		A	B	C	D	x^2
5	PR	16	22	7	0	10.93**
	MA	17	78	7	0	
9	PR	5	33	7	0	7.75*
	MA	31	64	7	0	
10	PR	4	37	2	2	10.33*
	MA	1	78	3	20	

PR 未熟児群　MA 成熟児群

* $p < 0.05$,　** $p < 0.01$

未熟児ということを知らされた時、どう思いましたか
（出産前に未熟児が生れることがわかっていた方は、そのことを知らされた時）

- ○ 命さえ助かれば良いと思った。 25人
- ○ 何か後遺症がないか心配だった。 24
- ○ 金銭的なことをまず考えた。 2
- ○ 仕方がないとあきらめた。 2
- ○ 絶望した。 2
- ○ その他 0

- ○ 非常にショックだった 7
- ○ ショックだった 12
- ○ あまりショックはなかった。 11
- ○ ほとんど何ともなかった。 3
- ○ 無解答 3

△ 赤ちゃんを初めて見たのはいつですか

- ○ 1週間以内 28人
- ○ 8日以上 8

△ その時、どんなお気持でしたか

- ○ あんまり小さいので驚いた。 16人
- ○ 痛々しくて涙がでた。 22
- ○ 泣いているのでほっとした。 8
- ○ とくに心配しなかった。 0
- ○ 自分の子という実感がなかった。 6
- ○ その他 4

△ その後面会でのお気持ちはどうでしたか

- ○ 会うたびに愛着がました。 20人
- ○ 会うたびに親としての自覚がでてきた。 12
- ○ あまり変らなかった。 0
- ○ 会うたびに、その後のことを考えると心配になったり不安になったりした。 21
- ○ 心配や不安はなかった。 0
- ○ その他 3

△ 初めて赤ちゃんに触れたのはいつですか

- ○ 1週間以内 14人
- ○ 8日以上 21

△ 触れる前どんなお気持ちでしたか

- ○ 早く触れたかった。 9人
- ○ 小さいのでこわさの方が強かった。 28
- ○ さわるのは いやな感じがした。 0
- ○ その他 1

△ 触れた時について

- ○ 親としての実感がわいた。 14人
- ○ 愛着が強くなった。 10
- ○ 触れても大丈夫かとびくびくした。 26
- ○ 異和感があった。 0
- ○ その他 0

△ 触れた後について

- ○ その後触れるたびに親としての実感はました。 26人
- ○ 触れて良かったと思った。 13
- ○ ただただ心配だった。 5
- ○ さわるたびにびくびくする。 5
- ○ その他 1
- ○ 無解答 1

△ 赤ちゃんの退院を待っていた時はどうでしたか

- ○ 早く引取りたくて仕方がなかった。 22人
- ○ 自分で育てる自信がなく不安だった。 11
- ○ 退院が近づくにつれてゆううつだった。 3
- ○ その他 6

△ 自分の子として実感が強まってきた時期はいつ頃ですか

- ○ 1カ月以内 26人
- ○ 2カ月以上 10
- ○ 無解答 1

△ 連れて帰った時はどうでしたか

- ○ やっと自分で育てられると思うとうれしかった。 15人
- ○ 医師や看護婦のようにはいかないと思うとまるで自信がなく不安だった。 7
- ○ 不安ではあったが、親としての実感を強く感じた。 23
- ○ その他 1

△ 実際に育児にあたってみてどうでしたか

- ○ 思ったより順調である。 24人
- ○ まあまあ順調である。 7
- ○ あまり順調でない。 6
- ○ 全く順調でない。 0

△ 愛情面ではどうですか

- ○ 入院中より愛情を感じる。 35人
- ○ 別に変らず かわいい。 4
- ○ 愛情はもてない。 0
- ○ 子どもが何をしてほしがっているかよくわかる。 4
- ○ その他 0

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

考案およびまとめ

第1回観察では,未熟児・成熟児の母親について,特性不安に差は認められなかった。養育態度において未熟児の母親は共通して,子どもの身体・発育状態に関して溺愛的傾向を示した。さらにこの特徴は,子どもの月令の低い時期に顕著にみとめられた。また母親の情緒的安定は,成熟児の母親より遅い時期にあらわれた。この要因として初期においては,子どもとの適応関係が得がたいため,過度の緊張状態に陥っていることがあげられる。なお育児経験がなく未熟児をもった母親には情緒的混乱がみられ,そうでない母親以上に育児に客観性が保てず,不安定であり,そのため主体性のある育児がなされていないことが明らかにされた。

第2回観察では・未熟児を経験した母親の不安および人格特性を測定し,それが(1)母親の養育態度,心理状態ひいては子どもの発育状態といかに関連するか,また(2)母子の早期からの皮膚接触および視覚接触の時期の影響を考察したものである。とくに後者については,要約すると,アンケート結果からは子どもとの皮膚接触の前は非常に消極的であるが,接触が増えるに従って愛着が増すこと.母親の神経症的傾向尺度(N 尺度)得点数と皮膚接触前の気持ち,あるいは子どもの退院を待つ時の気持ちとの間に有意差が認められた。すなわち,.母親は未熟産をどう受けとめてまいかわからず,.NICU の緊張した雰囲気で非常にうろたえるが,子どもを見,触れることで徐々に安定していく。この時N尺度得点の高い母親ほど,皮膚接触に対しては消極的であり,子どもの退院を待つ時も受け入れ体制は不十分である。一方不安に関しては,状況不安が高いほど,皮膚接触に関して消極的であり,特性不安が高いほど母親としての実感を持つ時期が遅くなる傾向があった。

以上の結果から(1)極小未熟児の母親は,退院後の乳児期初期において,子どもとの適応関係が得にくいため,溺愛的傾向が強く,情緒的安定の時期が遅れる。すなわち早期からの母子相互関係の円滑な成立が障害されやすい状況にある。(2)早期の母子接触(視覚および皮膚接触)は回を重ねる毎に,母親の愛着の成立を促進させる。しかし今回の調査では,視経症的傾向尺度の得点の高い母親に対しては,十分配慮して初期対面から退院まで指導することが必要であると思われる(表3)。